

具体項目

観点	発行者	東京書籍	開隆堂出版	学校図書	三省堂	教育出版	光村図書
<p>1 人間性の育成を図る上での特長</p> <p>教育基本法の理念や第二期長崎県教育振興基本計画の趣旨・内容を踏まえ、豊かな</p>	<p>(1) 教科の特質に応じて、「教育の目的」及び「教育の目的」の達成構成となつていているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 日本の伝統文化である落語や浮世絵、漫画などに関する題材を豊富に取り上げることで、日本文化に対する理解を深め、尊重する心情を養うとともに、東京オリンピック、パラリンピックに向けて、世界に日本のよさを発信しようとする意欲が高まるよう配慮されている。 東日本大震災を取り上げた防災や、ノーベル平和賞・フェアトレードなどの国際理解に関する話題を取り上げることで、社会のために貢献しようとする態度や平和な社会づくりを目指す心情を養うことができるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 諸外国とのつながりを意識しながら、世界の中の日本という視点に関心を向けさせることで、日本文化に対する理解と尊重する心情を深めるよう配慮されている。また、世界に日本のよさを発信しようとする意欲が高まるよう配慮されている。 人道支援や他国へのボランティア、クリーンエネルギーなどを取り上げることで、人権や環境保全の大切さに気付くとともに、平和な社会づくりを目指す心情を養うことができるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 世界遺産を取り上げることで、各国の歴史や自然を尊重する精神を養うとともに、日本と各国の言語や文化を対比させたり、日本文化に目を向けさせたりすることで、国際理解の基礎が養うことができるよう配慮されている。 平和や人権問題などで貢した偉人に関する題材を通して、世界平和を尊ぶ心情を育てるとともに、エネルギー資源や地球環境問題を取り上げ、環境保全に寄与する態度を養うことができるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本の伝統文化及び他国の文化や生活、歴史に関する題材を幅広く取り上げることで、他を受け入れ、尊重する豊かな心や国際社会の中で自分の考えや自国の文化を発信できる力をはぐくむことができるよう配慮されている。 原爆やスーダンの内戦、アメリカの公民権運動などの豊富な題材を取り上げることで、平和や人権に対する意識が高まるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本の文化や名所、旧跡に関する題材を通して、日本の伝統文化を発信する意欲を高めるとともに、「Culture Notes」のコーナーで各単元で扱う異文化などに関する知識や背景を取り上げ、生徒の意欲や関心が深まるよう配慮されている。 一つの単元の中にキャリア教育と国際理解など複数の題材を取り上げることで、自分の将来に関心を高めるだけでなく、他国の将来にも目を向け、グローバル社会に生きる人間の育成が図られるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「外国人から見た日本」において、世界の中の日本という視点に関心を向けさせるとともに、夏祭りや正月などの伝統行事を取り上げ、身近な日本文化を理解し、尊重する心情が深められるよう配慮されている。 人とのつながりを基盤とした題材を通して、思いやりのある豊かな心をはぐくむとともに、外交官の杉原千畝や地球環境サミットでスピーチをしたセヴァン・スズキを取り上げることで、平和や環境保全における人のつながりを意識させるよう配慮されている。
	<p>(2) 郷土「長崎」の伝統文化や歴史が、自然について理解を深める学習に生かせる題材が扱われているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 3年の「日本文化紹介」で有田焼が扱われており、本県の窯業と関連付けて取り扱うことができる。また、広島への原爆投下を取り上げた題材は、本県の原爆投下と関連付けて取り扱うことができる。資料編「修学旅行」には、長崎平和公園がカラー写真で掲載されている。 3年の東日本大震災について取り上げた題材は、過去の自然災害から学ぶという視点から、雲仙普賢岳の噴火災害と関連付けて取り扱うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 2年の「ガリバー旅行記」では、ガリバーの長崎訪問の記載があり、3年の「野菜の歴史」では、じゃがいものルーツが扱われており、鎖国時代の本県の歴史と関連付けて取り扱うことができる。 3年の日本の火山を取り上げた題材を雲仙普賢岳の噴火災害と関連付けて取り扱ったり、上野動物園の象を扱った題材を本県の平和学習の一環として取り扱ったりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 2年の世界遺産を取り上げた題材では、本県の世界文化遺産に推薦された「明治日本の産業革命遺産九州・山口と関連地域」と関連付けて取り扱うことができる。 3年の「アンネの日記」を取り上げた題材では、第二次世界大戦を話題とするものであり、本県の平和学習の一環として取り扱うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 2年の小笠原諸島についての題材では、世界遺産について取り上げられており、本県の世界文化遺産に推薦された「明治日本の産業革命遺産九州・山口と関連地域」と関連付けて取り扱うことができる。 3年の広島への原爆投下を取り上げた題材には、原爆や時計などの遺物の写真があり、本県の原爆に関する遺構などと関連付けて取り扱うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 3年で取り上げられた「アンネの日記」は、第二次世界大戦を話題とするものであり、本県の平和学習の一環として取り扱うことができる。また、1年では横浜の中華街を題材として取り上げており、新地中華街と関連付けて取り扱うことができる。 3年のジョン万次郎を取り上げた題材では、鎖国時代の様子や通訳者としてのジョン万次郎と長崎とのかかわりが想起され、本県の歴史と関連付けて取り扱うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 2年の夏の思い出を扱った題材では、沖縄平和祈念公園や横浜の中華街を話題としていて、本県の長崎平和公園や新地中華街と関連付けて取り扱うことができる。 3年のジョン万次郎を取り上げた題材では、鎖国時代の様子や通訳者としてのジョン万次郎と長崎とのかかわりが想起され、本県の歴史と関連付けて取り扱うことができる。

観点	発行者	東京書籍	開隆堂出版	学校図書	三省堂	教育出版	光村図書	
<p>2 学習指導要領の目標や内容等を踏まえて確かな学力の育成を図る上での特長</p>	<p>(1) かに基礎的・習得されるような知識・工夫・技能が確実に確実</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「Starting Out」や「Dialog」「Read&Think」における言語活動を通して、基礎・基本の定着が図られるよう配慮されている。 「Activity」における段階に応じた言語活動を通して、基礎・基本の確実な定着が図られるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「Basic Dialog」で本文の導入を図った後「Listen/Speak/Try/Write」で言語活動を行うことにより、基礎・基本を習得できるよう配慮されている。 「英語のしくみ」や「Basic Dialogのまとめ」等を通して、基礎・基本の確実な定着が図られるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「Listening/Speaking/Writing」における言語活動を通して、基礎・基本の定着が図られるよう配慮されている。 「Review」における言語活動を通して、基礎・基本の確実な定着が図られるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「Get」で、各技能の言語活動を繰り返し行うことで、基礎・基本の定着が図られるよう配慮されている。 「基本文のまとめ」などにおいて、これまでの学習を振り返り、基礎・基本の確実な定着が図られるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「Hop」「Step」における言語活動を通して、段階的に基礎・基本の定着が図られるよう配慮されている。 「Task」や「英語のしくみ」等を通して、基礎・基本の確実な定着が図られるよう配慮されている。 「Language Focus」等を通して、基礎・基本の確実な定着が図られるよう配慮されている。 		
	<p>(2) か等た知識等に・育成を必要とする思考力・判断力・解決力</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「Daily Scene」では、日常的な場面の表現を取り上げ、身に付けた知識・技能を活用した表現を考えることにより思考力、判断力が育成できるよう配慮されている。 「Presentation」では、発信型の英文を読んだり書いたりすることで、コミュニケーションに直結する思考力、判断力、表現力等を育成できるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「My Project」では、発信型の言語活動を通して、段階的に思考力、判断力、表現力等を高めていくことができるよう配慮されている。 「My Project」の「協働」の活動を通して、課題解決におけるペア・グループ活動の充実を図られている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「Reading」では、これまでの知識・技能を活用し、表現活動につながるよう配慮されている。 「Chapter Project」では、各単元で習得した知識・技能を活用する言語活動に取り組み、細かく段階を踏んで表現力を伸ばせるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「USE-Read/Speak/Write」では、習得した知識・技能を生かして、理解力や表現力が高められるよう配慮されている。 「Project」では、マッピングを活用した思考・判断を基に、自己表現活動につながるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「Conversation Tips」や「Time for a Skit」では、コミュニケーションを継続するために必要な表現力などを効果的に身に付けられるよう配慮されている。 「Project」では、各単元で習得した知識・技能を活用する言語活動に取り組み、マッピングを基に段階を踏んで表現力を伸ばせるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「You Can Do It!」では、4技能を扱った言語活動を通して、与えられた課題について自分の意見や感想を述べることで、思考力や表現力が高まるよう配慮されている。 「Go for It!」では、各単元で習得した知識・技能を活用する言語活動に取り組み、段階を踏んで表現力を伸ばせるよう配慮されている。 	
	<p>(3) い身態主体的に・養い、学習を取り組む習慣が</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各単元及び学年における目標、さらに3年間の見通しを明記することで、目的意識をもって学習に取り組めるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 各パートの上段に具体的な学習の目当てがあり、巻末に「できるよになったこと」を掲載することで、3年間の目標を意識して学習に取り組めるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 大単元ごとに単元のトピックや学習内容、学習目標を明記することによって、生徒が見通しをもって主体的に学習に取り組めるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元ごとに「この課で学ぶこと」を設定することで、巻末の「What Can I Do?」を参考にしながら主体的に学習に取り組めるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 3年間を見通した到達目標「Can-Doリスト」を基に目的意識をもって学習に取り組んだり、別冊資料「Essentials」を活用して自ら学ぶ態度を養ったりできるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元ごとにトピックや学習目標を明記することによって、生徒が見通しをもって主体的に学習に取り組めるよう配慮されている。 	

具体項目

英語

観点	発行者	東京書籍	開隆堂出版	学校図書	三省堂	教育出版	光村図書
<p>2 の 学 習 指 導 要 領 の 目 標 や 内 容 等 を 踏 ま え て 確 か な 学 力 の 育 成 を 図 る 上 で</p>	<p>(4) 育もる複 成に、語の か。4活技 き4能を よ能充統 よ能充合 に実合 にを的 配を 慮図に さスと活 れよと用 てく</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「Unit」で基礎の定着と確認を行うとともに、「Daily Scene」では場面別のコミュニケーション活動を行い、「Presentation」により自己表現活動につなげていくことで、4技能を統合した言語活動に取り組めるようバランスよく配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 各セクションを見開き構成とし、各技能がバランスよく身に付くような活動を設けるとともに、「Power-Up」及び「Reading」などにおいて、各技能の向上が図られるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 各セクションのレイアウトを見開き構成とし、「Listening」やペア・グループでの言語活動を通して、各技能の定着を図り、「Review」によって4技能がバランスよく向上されるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「Get」「USE-Read」「USE Speak/Write」の3段階の言語活動を通して、4技能をバランスよく育成するとともに、「Project」を複数の単元のまとめとして設定し、4技能を統合した言語活動が行えるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「Hop」及び「Step」により、4技能をバランスよく育成するとともに、「Jump Project」により、4技能の統合的な言語活動が行えるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「Try It!」や「You Can Do It!」により、4技能をバランスよく育成するとともに、「Go for It!」における4技能を統一した統合的な言語活動を通して、自己表現のための技能が高まるよう配慮されている。
	<p>(5) ミ文 さ法 れコ てニ いケ るシ かョ ン 活 動 と 支 え 果 的 に 関 連 付 け て 指 導 す る な ど 、 工 夫 コ</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各単元の基本文には、詳しい説明と簡単な練習問題を付けて、文法的な知識や運用上のポイントを押さえられるよう配慮されている。 「まとめと練習」では、文法事項を視覚的に整理して復習し、練習問題を解くことで文法事項の定着が図られるよう配慮されている。 「Daily Scene」や「Presentation」では、基本文をモデル文の中で繰り返し扱うことで、自己表現力を高めながら文法についての理解が深まるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 各単元の基本文は、「聞く」「話す」「書く」などの簡単な言語活動を通して、運用しながら理解が深まるよう配慮されている。 「英語のしくみ」では、基本文の解説を示し、言語活動と文法学習との関連が図られるよう配慮されている。 「My Project」や「POWER-UP Writing」においては、「書く」活動を通して、文法についての理解が深まるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元の基本文は、リスニングや対話活動等を通して言語活動に取り組み、「Action」の基本文は場面に応じた簡単な自己表現活動ができるよう配慮されている。 「Check It Out」では、基本文を単元ごとにまとめ、英語と日本語との対比による説明が取り入れられている。 「Chapter Project」では、創意工夫を生かした活動を通して、「書いて表現する」活動などについての理解が深まるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 各単元の基本文は、「Drill」「Practice」で定着を図った上で、「Use」において文法的な理解を深めながら言語活動が行えるよう配慮されている。 「文法のまとめ」や「Review」、「絵でわかる英語のしくみ」では、文法について確かな理解が図られるよう、イラストや図を使って提示するなどの工夫が見られる。 「Let's Talk」では、慣用表現について理解するとともに、コミュニケーションを円滑に進めるための技能が高まるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 各単元の基本文に、簡単な文法の説明を示すとともに、「Activity」による「聞く・話す・書く」活動を通して習得が図られるよう配慮されている。 「英語のしくみ」では、イラストや吹き出しを使って、文法についての理解が深まるよう配慮されている。 「Time for a Skit」では、コミュニケーションに必要な慣用表現の効果的な使い方が学習できるよう配慮されている。 各単元の基本文は、「Try It!」におけるリスニングやペアでの対話活動等を通して、文法的な理解と定着が図られるよう配慮されている。 「Language Focus」において文法事項を整理し、簡単な練習問題で定着を図るとともに、「Grammar Hunt」により、各Unitの重要文を確かめることができるよう工夫されている。 巻末資料の「英語のしくみ」では、イラストを用いて重要な文法事項の理解が深まるよう配慮されている。 	

具体項目

英語

発行者		東京書籍	開隆堂出版	学校図書	三省堂	教育出版	光村図書
2 特長	(6) 学習指導要領の育成や内容を踏ま	<ul style="list-style-type: none"> 「学び方コーナー」では、発音記号や音変化を取り上げ、英語の音声の特徴について主体的に学習できるよう配慮されている。 「Sound Box」に、発音の基本的なルールや英語の音声の特徴が具体的にまとめられており、音声について継続的に学習できるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 脚注に発音についてのアドバイスを示すとともに、「発音クリニック」のコーナーに要点を整理することで、英語の音声について継続的に学習できるよう配慮されている。 巻末資料の「英語のつづり字と発音」では、「英語の音声」について詳しく整理し、文字と音声との関連等を学べるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 1年の「Let's Start」において、アルファベットと単語が表す音についてまとめられている。また、脚注には母音と子音について継続的に学習できるよう配慮されている。 「Listen & Repeat」において、文強勢と語と語の連結等による音変化について理解し、練習することができるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「Sounds」や脚注などには発音の要点が整理され、英語の音声の特徴を継続的に学習できるよう配慮されている。 1、2年の巻末につづりと発音の関係を例示し、「発音の仕方」で口や舌の形を示す図を用いて詳しく解説するなど、発音指導が充実するよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 脚注に、単語の発音やイントネーション、音の連結などの要点を示している。また、1年の折込の「つづりと発音」により、母音と子音の特徴が学習できるよう工夫されている。 2年の「辞書についていっしょに学ぼう!」では、アクセントや音節の調べ方の説明があり、音声についての理解が深まるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 脚注の「Sound」に、文の強勢やイントネーション、音変化等に関する要点を示し、継続的に学習できるよう配慮されている。 1、2年の「Sound Focus」や「音声のまとめ」では、つづりと音の関係やリズムなどについて理解が深まるよう配慮されている。

具体項目

観点	発行者	東京書籍	開隆堂出版	学校図書	三省堂	教育出版	光村図書
<p>3 記 学習効果や表現や体裁の長さ、見やすさ等、ユニバーサルデザインの視点からの表</p>	<p>(1) 文章は、分量も分かって豊かなく、記述</p>	<ul style="list-style-type: none"> 本文や読み物教材は、職場体験や防災、ポップカルチャー等、生徒の身近な話題に関する題材が多く扱われており、字数や内容についても生徒の学習段階に適した内容となるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 本文や読み物教材で海外の生活や文化等に関する内容を多く扱ったり、英語の歌を多く紹介したりして、既習事項を英文の中で定着することができるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 全学年を通して、語彙力が高まるよう配慮されており、世界遺産や宇宙等、多様な題材を扱うとともに、表現の幅を広げることができるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 偉人や著名人を扱った読み物教材があり、ポイントを抑えた読み取りを行うとともに、将来に対する関心や志を高くもって学習に取り組むことができるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 旅行や諸活動等、身近なことを英語を通して疑似体験をしたり、海外の様子等について多様な興味や関心を引き起こしたりできるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 3年間を通した物語を構成したり、読み物教材でメモを取りながら読み取る方法を採用したりして、段階的に読む活動ができるよう工夫されている。
	<p>(2) 写真、挿絵、図表など、学習効果に十分に配慮されているか。学習意欲を</p>	<ul style="list-style-type: none"> 場面が把握しやすいイラストや題材に関連した写真や項目についての詳しい説明(一言メモ、コラム)が多くあり、内容理解に役立つよう配慮されている。 「Challenge」を含む読み物教材にはすべて語数の提示があり、速読等の指導に役立つよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 多くの写真に説明を加えたり、題材に関連した項目についての説明(枠囲み)を提示したりしており、理解が深まるよう配慮されている。 本文の音読回数を記録するためのチェック欄を設けており、音読練習に意欲的に取り組むよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 大単元の紹介ページや本文には、題材に関連した写真やイラストを掲載し、内容がとらえやすいよう工夫されている。 読み物教材には語数の提示があり、速読等の指導に役立つよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 題材に関連した項目や注意すべき語句等についての説明(Notes)を挿入したり、練習問題等にイラストを多く掲載したりして、理解が深まるよう工夫されている。 本文に記された英文を含む読み物教材には語数の提示があり、速読等の指導に役立つよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> イラストや題材に関連した写真・図表等を多く掲載したり、新出文型に関する解説や題材に関連した項目についての説明(Culture Notes)を挿入したりして、内容理解に役立つよう工夫されている。 巻末の付録に学習到達目標の達成度を自己評価するためのページがあり、学習への意欲が高まるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 写真やイラストを大きく取り上げたり、漫画で場面を表現したりして、想像しながら英文を読むことができるよう工夫されている。 単元(Unit)ごとの紹介ページに学習到達目標を提示したり、本文の音読回数を記録するためのチェック欄を設けたりして、意欲的に学習に取り組むよう配慮されている。
	<p>(3) は、挿絵の活用、紙質、製本等に配慮されているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 単元(Unit)ごとにタイトル部分やページ上部の色を統一したり、活動ごとの基調色・字体を変えたりして、区別しやすいよう配慮されている。 表現活動の際に「ツールボックス」にある語を活用して様々な英文を作ることができるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元(Program)と活動主体のページ(POWER-UP等)を色分けし、区別しやすいよう配慮されている。 1年の巻末資料に付属の「アクションカード」を添付し、様々な言語活動で活用できるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 題材や活動内容に応じて、色彩や人物のデザインを変えるなど、取り組む内容の違いが分かるよう配慮されている。 英文の背景色を放送や手紙等の状況設定に応じて変えており、区別が付きやすいよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 各単元(Lesson)で「GET」と「USE」のタイトルを色分けしたり、活動ごとに基調色・字体を変えたりして、区別しやすいよう配慮されている。 新出単語等の発音記号が紫色で印字されており、発音記号を認識しやすいよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 各単元(Lesson)や活動ごとのページデザインを統一し、イラスト・写真等もほぼ同じように配置しており、取り組む内容の違いが分かるよう配慮されている。 付録冊子「Essentials」において既習事項の活用例を示し、表現活動等に役立つよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 活動のページが種類ごとに色分けされており、区別しやすいよう配慮されている。 新出単語等の発音記号が紫色で印字されており、発音記号が認識しやすいよう配慮されている。